



「2月4日は立春」

節分のあとの立春が、新しい年の始まりともいわれる。

過去から未来へと続く、今この時も

また、暮らしているこのまちも

人々や事柄も含めて、歴史に無関係ではない。

少しでも住み易くしたいと、常にそう望んできた昔があったか

ら

私たちはここで生活していけるのだろう。

昨日までのどこかで、愚かな誤りがあったとしたら

明日からそのための苦勞が始まるだろう。

次の世代へ謙虚に、しかし誇りをもって

ふるさとを引き継げるよう、いい一年にしたいと思う。

旬の版画

元日の朝

1年間の“幸い”を願って
竹田の家々に投げ込まれる
縁起物の姫だるま

『七転び八起き』

今年も“こつこつ”行きます
どうぞ宜しく。



せんてい 剪定ばさみ (庭師のワンポイントアドバイス)

「松の『もみあげ』」

松の剪定は、年2回行います。1回目の剪定については以前に和No.10で紹介した通りですが、今回は2回目の剪定についてお話しします。

庭木の本などには、『2回目の剪定時期は、10月～11月がよい』と書かれている様です。しかし、経験から言えば、霜が降り始めた頃から、2月ぐらい迄が良いでしょう。松の葉を手でしごき落とし、葉の数を整理して”整枝”します。これを『もみあげ』と言います。

1回目の剪定をしなかった場合は、特に姿が乱れていますから必ず行います。枯れ枝や、絡み枝などの不要枝を枝元からはずし、枝元を整え、その後、下から上に擦って去年の葉(芽摘みをした後に出ている芽以外全部)を落とします。

もみあげをする事により、見栄えが良くなるばかりでなく、下枝まで日光が届き、風通しが良くなり、枯れ枝が出来ず、病虫害もつきにくくなります。



もみあげ前(11月)



もみあげ後(11月)



芽摘み後(6月末)

川野組 ING (現在進行形)



M邸 (長湯)

完成間近!

Y邸 (竹田)



『和』を読んでの
ご感想を
お聞かせ下さい。

発行人 川野和男
編集 川野組内
家造り匠の会
☎ 竹田 62-2416
メール tkk22@theia.ocn.ne.jp

ちょっと木になるお話

自然の猛威に震撼の連続だった2004年もどうにか過ぎ、新しい年が始まりました。1月は、1年の計を思い巡らす希望に満ちた月。お正月の食卓では、今年の夢の話で大いに盛り上がったことでしょう。

その家族の語らいに絶妙な演出をしてくれるのが、“鍋料理”です。鍋料理をする場合、今日では、ほとんどの家庭がガスコンロや電気調理器具を使用しますが、炭火でコトコトやる鍋も良いものです。我々「匠の会」のメンバーに、自宅に囲炉裏の部屋を設えている人がいて、皆でおじやました事があるのですが、その折に振る舞われた“猪鍋”の美味かったこと！。奥方の腕前は勿論ですが、囲炉裏に掛かった鉄鍋を温める炭火を見ていると、心まで温まるようで、いつも以上に会話が弾み、酒も進みました。

かつては、生活に欠くことの出来ない燃料であった木炭。その高い製造技術は、中国から伝えられたもので、空海も当時の先端技術を持ち帰り、布教と共に全国に伝えた一人だといわれています。奈良時代の大仏建立の際には鑄造の燃料としても使われたそうです。鎌倉時代には、需要は益々増え、炭焼き業が商売として成り立つようになりました。そして室町時代、『茶の湯』の発展とともに製造技術も一気に向上し、ほぼ今日に近いものになりました。

木炭には島根木炭や、池田炭に代表される黒炭と、備長炭に代表される白炭がありますが、その違いは製造法から来るものです。黒炭は、火の付きが良く素早く燃え上がり高温になります。一方、白炭は、炭質が非常に堅いため火の付きは悪いのですが、いったん燃え上がると均一で長時間強い火力がえられます。木炭と人類の関係は、人が火を使うようになった頃からと考えられていますから、木炭の文化も炭焼きの技術も世界各地にあります。しかし、白炭を焼く技術があるのは日本、中国と朝鮮半島の一部だけです。白炭の中でも人気商品である備長炭は、元禄の時代に紀州の炭問屋「備長屋」が江戸に持ち込み、大ヒットしたことから、この名が付いたといわれています。長い間、沢山の需要があった木炭ですが、戦後、石油、ガス、電気の普及と共に主燃料としての歴史を終えることとなります。

ところで、右の写真の車、何だと思いませんか？

これは木炭トラックの写真です。戦中、戦後には、こんなものが走っていたそうです。「木炭で車が走るの？」と、ちょっと疑ってしまいましたが、ガソリンの主成分が炭化水素であることを考えると、その固形である木炭を燃料とすることも理にかなっています。もっとも馬力の方はからっきしだった様で頻りにストップしては、皆で押していたそうです。



一時は活躍の場を失っていた木炭ですが、最近では、『飲料水や、空気の浄化作用がある』『炭に含まれるミネラルで料理が美味しくなる』『床下に敷くとマイナスイオン効果が得られる』等の健康や、生活環境面での利用が研究され、再び脚光を浴びるようになりました。そのうち、ボディに煙突を付けた“ミニバン”が最新モデルとして登場する日が、やって来るかも。

休景たいむ 「いっぷく」時間の一枚



この写真は、今号の **川野組 ING** で紹介している Y 邸の屋根からの景色です。

竹田駅のホームが見えます。赤い列車は、熊本行きの『九州横断特急』です。

里山探訪 やまの恵みたち

竹田の周辺域の山村では、林業、とりわけ椎茸生産がされていますが、毎年この時期には、シカの“食害”で悩まされます。



山の造林木、椎茸はもちろんの事、水田の苗、家庭菜園、等々にまで被害が及んでいます。

「クヌギ林では、伐採・育成を繰り返し、循環的に利用が続けられている」

と、前回お話をしましたが、シカの“萌芽食害”は、クヌギの株を枯死させ、場合によっては、山を草原化させてしまう程です。

山村では、自然の恵みの中で生かされているものの、自然との共生は困難を伴う事も多い様です。